



2025 年サステナブルファイナンス大賞の選考結果



一般社団法人環境金融研究機構（RIEF）は 2025 年のサステナブルファイナンス大賞を選考しました。

大賞には、わが国で初めて、ESG 債に特化したプロ投資家向け債券市場「北海道 ESG プロボンドマーケット」を創設した札幌証券取引所を選びました。わが国での ESG 投資の裾野を広げ、国内外からの活発な投資を促すことへの期待を込めました。

優秀賞は、サステナブル投資スキームによって持続可能な航空燃料（SAF）開発の米企業に投資した野村證券、データセンター等の省エネに役立つ独自の光ファイバーケーブルの開発・製造の資金調達でグリーンボンド発行のフジクラ、温室効果ガス排出の削減貢献の開示に積極的な企業を支援する「削減貢献量インパクトファイナンス」を展開したみずほ銀行、サーキュラーエコノミーと、ネイチャーポジティブに特化したスタートアップ投資ファンドを創設した三井住友信託銀行の 4 機関としました。

グリーンボンド等の**サステナブルボンド賞**には、ジェンダー平等と女性活躍推進で初のオレンジボンドを発行した伊藤忠商事、気候変動で増大する水害対策などを資金使途とする初の防災債券を発行した愛知県と同債券に投資した第一生命のグループ、同じく水害対策の水害レジリエンス債を発行した三重県・横浜市と、同債券に投資した東京海上日動のグループ、海外市場でレジリエンスボンドを初めて発行した東京都、国内で初のネイチャーポジティブを目指すネイチャーボンドを発行した名古屋市を選びました。

今回初めて設定した「**サステナビリティ・サポート賞**」は、他の企業のサステナビリティの向上等に貢献した企業などを顕彰するものです。ESG のコンサルティング等で実績のある「ERM 日本」、自動車のリサイクル資金の運用をする「自動車リサイクル促進センター」、J クレジット普及のため企業向けに森林由来の J クレジットを付与する貯金を創設した商工中金の 3 機関を選びました。

「**地域金融賞**」には、グリーン預金にスタートアップ支援を加味した「グリーン&スタートアップ預金」を開発した京都中央信用金庫を選びました。

「**NGO/NPO**」賞には、化石燃料からの脱却を求める活動を国際的に展開し、日本政府にアジアでの AZEC 政策の転換を求めている「Oil Change International」を選びました。

「国際賞」には、アフリカの国として初めて円建てグリーンボンド（サムライ債）を発行したコートジボアール共和国と、初の円建てトランジションボンド（サムライ・トランジション債）を発行した韓国の新韓銀行を選びました。

<サステナブルファイナンス大賞とは>

環境問題を金融的手法で解決する「環境金融」の普及・啓蒙活動を展開する一般社団法人環境金融研究機構（RIEF）が、2015年から始めた表彰制度です。今回で11回目。対象は日本の金融市場で環境金融商品・サービス・取り組みを展開している金融機関等です。

審査員は、魚住隆太・魚住サステナビリティ研究所代表、後藤英樹・元ゴールドマンサックス、佐藤泉・弁護士、高田英樹・グリーンファイナンスネットワーク事務局長、玉木林太郎・国際金融情報センター理事長、鳥谷礼子・預金保険機構運営委員会委員、藤井良広・環境金融研究機構代表理事、待場智雄・ゼロボード総研所長、光成美樹・FINEV 代表取締役、宮崎知己・元朝日新聞記者の10人で構成しました。

10人の審査員が6項目に基づき採点、全員のスコアを元にした定量評価と、審査員会議での定性評価を合わせた総合判断で、「最も優れた金融機関」を選びます。評価項目は「新規性」「ESG 度」「Impact（他への波及）」「Impact（顧客、社会への影響）」「収益性」「組織評価」の各項目です。

「表彰状授与式」は2026年1月23日（金）午後3時から、東京・内幸町の日本記者クラブで開きます。取材は自由です。

連絡先：環境金融研究機構（green@rief-jp.org）

携帯 090-8728-2311